深部膿瘍特にドウグラス窩膿瘍

穿刺一新式排泄器(電熱凝固管)

W. T. Wiener 述 (Zentralbl. f. Gynäkologie 60. Jg.

25. Juli 1936.)

化膿性ドウグラス窩滲出液或は子宮附屬器膿瘍を腔式に排膿する事は熟練せる婦人科醫に之つては困難な事ではないが初心者に之つては、その切開排膿に當り副損傷を度外視するも良結果を收め難い。それで Landau 氏は當時滑動鉗子を有する套管針を作製したが之を使用するには或程度の暴力を要するので従つて癒着を破裂せしめる恐があるので自分は最早之を使用してゐない。

若し穿刺竝に切開を兼備する器具でその膿瘍を充分廣く開口する事が出来れば是等の危険を避ける事が出来るのである。自分は此目的で圖に示す様な器械を作製し(作製器械店 Firma Koch & Sterzel, Dresden-A. 24, Zwickauer Str. 40/42.) 實驗の結果非常に具合が良い。之は長さ十二厘直徑二耗の穿刺針で其尖端二厘迄の部分が或一つの孤

立被蓋で完全に蔽はれてゐる。此穿刺針はレコード注射器に相當し、試験穿刺を行ひ膿があれば吸引且洗滌する事が出来る装置になつてゐる。逐次膿が流出する場合には此穿刺針に附屬し且穿刺針を完全に閉塞する中間部分を押し込むのである。此兩部分は煮沸消毒が出来る。此中間部の穿刺針と接觸する部分にデアテルミ―高周波裝置の一部を附結し電流を通じて後其刺針を徐々に引き抜き膿瘍と腔との間の管溝を燒灼すれば精々第二日に即ち膿が未だ大量蓄積せぬ内に其部の組織は溶融し膿は綺麗に排泄せられる。本器に如何なる利點があるか？

試験穿刺陽性で決定すれば其膿瘍腔を充分開口する事が出来る。尙副損傷を招來する事もなければ又刀を以て切開した場合の様に創縁が密著する事がない故ドレーンを入れる必要もない。従つて疼痛を伴ふドレーン交換の必要がない故、その後療法は簡單である。組織浸潤の消退竝に膿瘍腔清淨には溫熱療法を施す。

(Aus der geburtsh.-gynak. Abt. des Elisabeth-Hospitals Bochum Leiten-der Arzt: Dr. W. T. Wiener)

(菅原抄)

先天性股關節脫臼治療用の外

轉帶

Dr. Felix Bauer 述 (The Lancet May 9, 1936.)

腰部關節の先天性脫臼治療の第一歩は出來得る限り早く整復を行

ふ事である。整復の直後に外轉緊著帶を適用する。これは木綿の帶紐にて作られ下部胸廓の周圍のバンドに取付ける事に依て兩膝を離して牽くやうに裝備されたものである(第一圖、第二圖参照)。自然の動作は妨げられる事なく只關節の外轉及び伸展が關節の状態に従つて變化する程度に妨げられるのみである。母親も小兒もこれに依て煩はされる事は少しも無く、小兒は自然の生活を送り筋肉組織も發達する。治療は重病中でも差支へない。又氏の緊著帶は母親自身でも容易に取換へ得る。此の治療法は小兒が幼い程簡單で自然的である。

第一年目の後半、即ち嬰兒が動かうこの希望が増し、投げ坐りをする頃になれば軽い棒を緊著帶の膝の間に加へる。これは只外轉ミ伸展を防ぐのみで其他の關節運動の自由は残して置く。脚部をひ

ろげた儘で這ふ事が出来、後には歩く事も出来る。從來の固定法に依て石膏塑型を脱した小兒が發育せず、萎縮した關節ミ貧弱な筋肉組織ミなるのに反して、此の治療法に依る小兒

は整骨の位置に於ける練習に依て腰部筋肉が發達し普通に歩行する事が出来る。
(笠原 秒)

新 器 械

Edmands 電気浴器

本器は身體各部の熱療法を行ふ裝置で、操作簡單、有效である。本器は熱度を三段に調節し得る白熱燈數箇を二箇のアルミニウム反射器の下に配列せるもので、此のアルミニウム反射器は螺旋で互に留め合されてある故、手、足或は本器の大型の者では背部に沿ひ、取り捲く様な形になす事が出来る。
電燈は6—24箇、直流何れにも使用し得らる。積出重量は型により

一〇 $\frac{1}{2}$ ポンドより五〇ポンド迄ある。

本器は協議員會(米)の認定済である。製作者 Walter S. Edmands, 135 Columbus Avenue, Boston, U. S. A. (Jour. A. M. A.